

# 鍼灸雜誌

# 醫道の本

第六卷 第七號  
重大二一ノ一號

## 十月號 目次

- 一、重大ニュース……………
- 一、鍼灸術の危機と業者の覺悟……………井上惠理……………一
- 一、重大要望は何故なされたか……………B 記……………二
- 一、聲明書……………參議員 小林勝馬……………三
- 一、坂本貢氏の小策を衝く……………鈴木啓民……………三
- 一、鍼灸者よ山に登るな……………渡邊常男……………三
- 一、業界ニュース……………編輯室……………四

發行所 横須賀市追濱二六一 醫道の本社  
東京支社 千代田區飯田町一七

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます

無断転載禁止

(4)

### 厚生省當局鍼灸術を聞く

十月七日厚生省一階次官室に於て、鍼灸マツサージ術の規則作製に就いて、現在の鍼灸術の重大事に對し慎重を期する爲、鍼灸術業界の現状及鍼灸術の學的内容を知るべく、厚生省よりの招ぎにより、日鍼連會長小守氏、同理事長小林參議員、學術審議會鍼灸部長岡部氏、東盲校長松木氏、盲人福祈協會會長原氏、官廳側より、一松厚生大臣、東醫務局長、久下同次長、高田同課長、外技官三名、文部省より屬官出席し、小守、小林兩氏より業界の事情を、岡部氏より鍼灸術の學的内容を約二時間に亘り説明し、厚生大臣初め参加者に斯業の實情を認識せしめた、鍼灸術存否に重大なる時機に際し、當局の今後の動向が一層慎重を要する爲に行はれた事で、此の會議は有意義であつた。

### 業界ニュース

#### 日鍼連全國師會長會議

九月二十八日、日鍼連に於ては飛電を飛ばして全國師會長を招集し、小守會長、小林參議員、岡部學審部長、今關制度審部長、在京理事全員出席、全國師會長二十二名欠席にて、今回のその筋よりの重大要望に對する前後策を練つた。一同カタツを呑む嚴肅なる雰囲気の中で、小守會長より終戦以來今日までの努力の経過を報告したる後、その筋よりの重大要望を發表す。

全員身のしまる心地となる。續いて小林參議員より今後の對策につき説明あり、終つて、九州の花田氏座長となり、活潑なる論議にうつた。更に夜間小委員會を小林氏宅に開き具體的案を練る。同時にこの際全會員一人宛百圓の運動資金を醸出する事に決定、それへ師會長へ通達。

鍼灸術の重大危機に際して、業界一部の人々によつて結成されて居る、鍼灸醫師法制定運動の會の指針は一應白紙に還つて出直す必要が有るやに思はれたが、十月十日四谷の學校で臨時總會を開き、更に國會に對する運動を活潑に始めた。

大阪に本部を置く日本鍼灸醫會の浦崎氏

樋口氏、北村氏、横田氏は十月四日東京し厚生省を訪問現在の業界事情を聞き、日鍼連盟に協力すべく、岡部氏、井上氏、大村氏と會談の後歸阪した。今後の鍼灸界肅清の爲に前記諸氏の年來の熱の有る努力が期待される。

○今回の重大事件を日鍼連のデマであると、各地に電報を以て通報した會長がある。デマにもよりけり、出来もしない鍼灸醫師法を出来るが如く吹聴して資金集めの具にする人のやりさうな事であると、一讀者よりの投書が有つた。

千葉縣鍼灸按摩師會では、去る五日臨時支部長會を招集して、即日七千圓を日鍼連盟本部に送達したる由。

去る十三日飯坂温泉に開かれた、東北、北海道の地區總會に日鍼連理事長小林氏が出張し、業界事情を明らかにした。全國中最も不振であると云はれる東北地方業界の奮起の促進が期待される。

九月二十一日大阪にて全國大會を開催したが、右會に集りたるもの、東京及大阪の晴眼者で、會長を坂本貢氏に選舉、鍼灸醫師法制定の運動を起し、十月一日衆議院に請願書を提出した。

神奈川縣師會では、重大情報に基く緊急役員會を十月十日に平塚で開催、全員一致團結を誓ひ、會員一人宛百圓の醸金を決定す。

無断転載禁止

(5)

### 東京鍼灸醫學會の第二回定例研究會は、十月五日(第一日曜)に千代田區飯田町二丁目日本醫科大學專門部教室に開かれ、業界事情の報告に引續き、次レウ穴に就いて木下晴都氏の研究發表、肩胛關節周圍炎の治療法に就いての會員相互の臨床的研究討論を行つたが熱心なる會員の發言は今までない活潑に行はれて、實に有意義であつた。次回は十一月二日同所に行ふ、自由研究課題は喘息の治療法である。

### 衆議院の厚生委員長小野孝氏は九月二十日九陳情を受たる日本鍼灸醫連盟に對しその運法方即ち盲人排撃、鍼灸醫師法の非なるを説いて、その善處を要望された。

### 消 息

柳谷素靈先生は八月東京以來講習會及講演會に活動中、水害にて交通杜絶にて引續き滞京中に業界の危機に直面して、之が打開策に努力し十月九日歸郷せられた。十月末或は十一月中旬には再び上京する筈である。

○末吉久一氏 日鍼連副會長の氏は九月十七日腦溢血にて死去さる。後任の人選は小守會長一任と決定

○平川莊作氏怠慢を責めらる

東京都鍼灸按摩師會々長平川氏は、今時の重大情報を單なるデマであると稱し、會員に何等通報をせず、又六月以來會の事務の殆んどをとり、會員に大なる迷惑をかけ、六月二十六日以來晴眼者のみを會の設立に狂奔せるはその職責を自覺せざる態度にしてまことに遺憾なりと、十月五日開かれた東鍼有志會員懇談會に於て彈劾された。

### 日鍼連幹部と坂本貢氏等の會見

坂本氏等遂に同一歩調を取れず、鍼灸術の存続問題が、重大な時期に到達してゐる十月十六日午後七時、日鍼連會長小守良勝氏方で、日鍼連の理事と坂本貢氏等との會合が行はれた。會合の目的は坂本貢氏等が問題の真相を知らぬために、實際に反した行動を取つてゐるので、これでは重大な時に困るから、よく真相を知らせて間違ひのない行動を取つて貰ふやうにする事にあつた。

參集者は、日鍼連は、小守會長、小林理事長、岡部、井上、竹山、大村、林、合業氏等中央理事と上京中の九州代表の花田、大久保兩氏。坂本側は坂本貢、廣澤増太郎、平川、篠原氏外數名。

日鍼連の學術審議會鍼灸部長岡部光秀(素道)氏が、問題の進行推移に就て最も深く關係してゐるので、氏から真相の發表があつた。その發表によつて、坂本氏等一派の連中が全く真相を知らずに、勝手に現實に反して行動し、正しく行動してゐる日鍼連側の運動の邪魔となつてゐたことがハッキリして來た。

### 全國師會長會議

○十月二十一日 日鍼連では全國師會長會議を東京神田の日本醫師會館で開催し、その後の経過報告をなし、今後の全國的な連絡、運動方法につき協議し、了つて全員に國會にかけ衆、參兩厚生委員に挨拶をなす由

○十月二十三日中國ブロック結成大會が米子市に開かれ、日鍼連本部では全畫部長の井上惠理氏と五十嵐氏を會員の時局の認識を深める爲派遣した

○十月十日近畿ブロック役員會開催、緊急事態に即應する爲日鍼連本部の連絡員を常時派遣する事に決定、先づ第一回として滋賀縣が擔當す

○九連では十月十日九州大會を開催全會長一致して日鍼連本部の今回の動きに協力、本部よりの指示の運動基金一人につき百圓を直ちに集め、先づ福岡縣では三萬六千圓を本部へ納金した。尙九連では、連絡員として、大久保花田の兩氏を東京に派遣(十月十五日着京)

このコンテンツは株式会社医道の日本社、著者が有しており、日本の著作権法および著作権に関する国際法によって保護されています。営利・非営利にかかわらず、複製、複写、コピー、販売、その他の再利用を固く禁じます